

聖隷横浜病院 消化器内科専攻医プログラム

1. 後期研修の対象者と目的

研修指定病院で2年間の初期研修を終了し、プライマリーケアを中心とした基本的な臨床能力を有する卒後3年目以降の医師で、将来消化器内科を専門とし、内科学会専門医、消化器病学会専門医、消化器内視鏡学会専門医など専門医取得の意志のあるものを主な対象とする。聖隷横浜病院消化器内科の後期研修プログラムは、初期臨床研修をさらに発展させ、はば広く消化器病学を理解した上で、質の高い医療を行う専門医を養成することを目的としている。また後期研修終了後には消化器病、消化器内視鏡の各専門医資格を獲得することを目指すものである。当院は日本消化器病学会認定医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設であり、本研修期間は専門医取得の際の指導施設在籍期間に充当できる。

後期研修の到達目標:

1. 消化器疾患全般にわたる病態生理とその治療法を理解し、診断法、治療手技を習得する。
2. 経験症例について学会発表や症例報告を行う。

研修スケジュール (例)

1年目

内科疾患を広く経験するために、消化器内科以外の救急医療にも携わる。総合内科外来を担当するとともに、消化器の基本的な外来診療にも携わり、消化器内科の入院患者の主治医となり診療を行う。初期臨床研修による知識・経験を基に、消化器疾患に対するより専門的な診断、治療、技術を学ぶ。腹部CT、MRIの読影法などを修得し、検査としては腹部超音波、消化管造影および上部消化管内視鏡検査を学ぶ。手技の到達度に応じて下部消化管内視鏡検査の研修も開始する。また緊急内視鏡検査、緊急内視鏡下処置、ERCP等の特殊検査や内視鏡治療の準備、助手ができるとともに、PTCD、PTGBDなどの観血的侵襲的な手技の介助または自ら行えるようになる。消化器疾患分野の検査、処置に関して患者および家族への説明ができるようになる。さらに消化器関連学会、研究会での発表を行う。

2年目

外部の関連病院で研修を行い、当院で経験することのできない内科疾患を経験する。

3年目

消化器内科の専門研修となる。エコーガイド下肝生検を介助または自ら行えるようになる。上部、下部内視鏡検査の技術向上を目指す。さらに上級医の監督下に緊急以外の簡単な止血、

ポリペクトミー、食道静脈瘤結紮術・硬化療法等の上部消化管内視鏡治療ができるようになる。また、論文作成を行う。日常診療と研修医等の指導を行う。消化器疾患に関わるすべての診療手技を指導医のもとに行う。これまで習得した技術を基に、ERCP 関連処置、ポリペクトミー、EMR、ESD、内視鏡的止血処置、食道静脈瘤破裂の内視鏡治療を経験する。

2. 後期研修終了後の進路

下記の進路を選択することができる。

- 1) 4年目以降スタッフ（消化器内科医師）として当院で就業
- 2) 他病院での消化器科診療のさらなる研鑽